

附高歴史博物館「おかしな偉人展」の実践報告

—地域の歴史博物館と連携した取り組み—

地歴科 小田原健一 高野昌也

第3学年の学校設定科目・応用日本史/応用世界史で、生徒が歴史学習の成果を発表するために歴史博物館を設立するという設定の授業を展開した。博物館の設立は授業者側から提案したものだが、企画展の内容は生徒たちの発案から決めるなど、生徒が考えたり、話し合ったりすることに主眼を置いた。4月～10月の実施期間を通して科目横断型の授業とし、世界史担当者（小田原）と日本史担当者（高野）が共同で生徒の活動を支援し、成果発表の場として9月の碧海野祭（文化祭）を活用させてもらった。また、企画展を充実させるために、刈谷市歴史博物館の学芸員の方に出張授業などを通して協力を頂いた。

<キーワード> 博学連携 地域連携 科目横断 教職大学院の人材活用

1. はじめに

本校では、第3学年の文系1クラスで地理歴史科の学校設定科目として応用日本史/応用世界史（2単位）を設けている。今年度は応用日本史を高野昌也講師（教職大学院生としても本校で研修を受けている）が、応用世界史を小田原が担当し、日本史 B/世界史 B を含めた日ごろの歴史学習の成果を生徒たちが発表できるような授業を年度当初に考案した。なお、本稿の執筆にあたっては3. アンケート結果の集約を高野講師が担当し、それ以外を主に小田原が担当している。

博物館と連携した授業の発想は2年ほど前からあったもので、きっかけは本校国語科の地域連携講座である。この地域連携講座では名古屋市の徳川美術館と連携して Zoom を利用した遠隔同時配信授業を行い、古典作品への関心を高めることを狙っている。今年度、応用世界史を担当することが決まり、連携できるなら平成31年に開館したばかりの地元の刈谷市歴史博物館が最適だと考えた。そして応用日本史担当となった高野講師にも協力を依頼して科目横断型の授業とし、3年1組の全生徒が関わることとなった。

2. 附高歴史博物館の歩み

(1) 開館へ

次の図1は応用日本史/応用世界史の合同で行ったガイダンスで配付したプリントの抜粋である。実際に授業が始まると、若干の予定変更やグループによる進行状況の差はあったものの、概ね4月当初に示した予定通りに進めることができた。

図1 授業進行予定

後日同様の予定を示した実施要項を職員会議で示した。職員会議前に生徒会顧問の教員には相談していたが、授業での取り組みを碧海野祭で展示発表するという案についても承認を得ることができた。

令和4年度 応用世界史（日本史）授業について

応用世界史（日本史）の授業では、附高歴史博物館「〇〇〇展」の企画をし、碧海野祭（校内発表）で「〇〇〇展」を実施する予定でいます。〇〇〇の内容は、これからの授業で3年1組の皆さんが話し合っていて決めていきます。当日には可能なら当番制で案内係をしてもらいますが、忙しそうで無理なら、無人でも見に来てもらえるような工夫が必要になります。

日程は次の通りです。（これは目安です）

木曜3限	内容	金曜3限	内容
4/14①	ガイダンス	4/15②	企画（〇〇〇展）検討
4/21	体力テスト（予備日28）	4/22③	企画決定、内容検討1
4/28④	内容検討2	4/29	昭和の日
5/5	こどもの日	5/6⑤	☆予備日（外部講師講演）
5/12⑥	調査分担、役割決定	5/13⑦	調査活動1
5/19	中間考査	5/20	中間考査
5/26⑧	調査活動2	5/27	球技大会
6/2⑨	調査活動3	6/3⑩	調査活動4
6/9⑪	調査活動5	6/10⑫	中間報告と振り返り
6/16⑬	再調査1	6/17⑭	再調査2
6/23⑮	期末考査に向けた学習	6/24	期末考査
6/30	期末考査	7/1⑯	考査返却、展示方法検討
7/7⑰	ポスター制作1	7/8⑱	ポスター制作2
7/14⑲	ポスター制作3*45分授業	7/15⑳	ポスター制作4*45分授業
夏期休暇 *ポスター完成			
9/1	LT	9/2㉑	ポスター印刷、装飾物制作
9/8㉒	装飾物制作*45分授業	9/9㉓	装飾物完成*45分授業
9/15	碧海野祭	9/16	碧海野祭

（2）企画展の検討

上記の予定通り2回に渡って企画展の内容を決定していった。授業者として、平和について訴える案や戦争について学ぶ案などが出てきてほしいという願望もあったが、基本的には生徒から出てきた案を尊重することとした。次の図2・3は企画展検討中の教室の様子である。

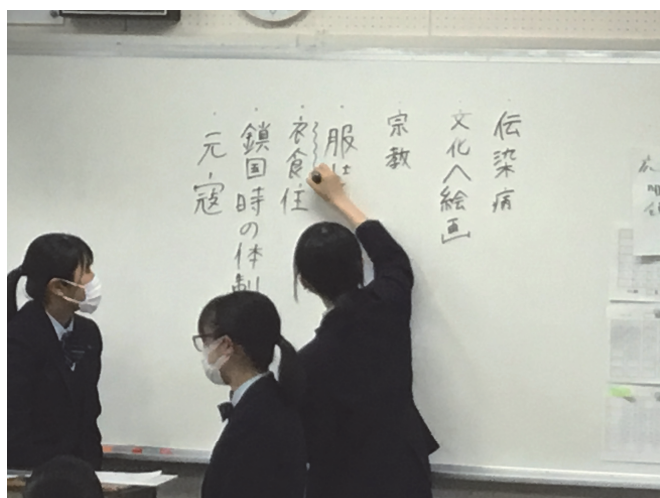


図2 出された案を板書する司会役の生徒

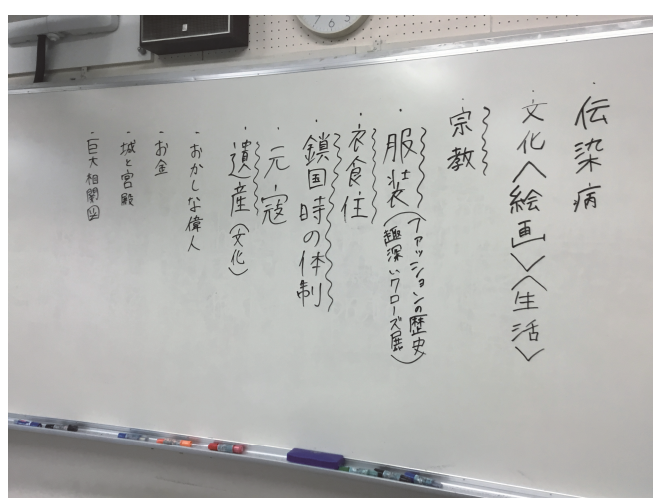


図3 出揃った案

種々の案の中から最終的には投票を行い、企画展は「おかしな偉人展」に決定した。この後、3名以内でグループ（日本史・世界史の混合も可とした）を作り、それぞれのグループが調べる偉人たちを決定した。自分たちで選んだ偉人が調査対象となったことで、多くのグループが活発な動きをみせた一方で、展覧会としての一体感やメッセージ性は薄れるかと危惧したのも事実である。そこで体裁だけは統一しようと、各グループ原則として2枚のポスターを作成し、1枚に偉人たちの功績を、別の1枚に偉人たちのおかしな面をまとめることを提案した。

(3) 刈谷市歴史博物館との連携

校内での準備と並行して本実践の出発点であり要である刈谷市歴史博物館との連携準備も行った。正確な記録は残っていないが、最初に電話をして、河村智美指導主事に構想説明をしたのは4月上旬のことである。そして4月23日（土）に刈谷市歴史博物館で、河村指導主事と長澤慎二学芸員と私の三者で初めての打ち合わせを行った。主な議題は次の図4の通りである。

4 内 容

- ・刈谷市歴史博物館での企画展が実現するまで。
- ・資料収集の方法や、資料を扱う際の注意点について。
- ・展示の方法や工夫について。
- ・チームで一つのことを達成するための工夫について。

などを、ご講義いただきたいと思います。生徒達の活動のヒントになるような取り組みを紹介していただけたら幸いです。

図4 打ち合わせに持参した派遣依頼文書の抜粋

私はこの時初めて博学連携という言葉を知ってもらったのだが、刈谷市歴史博物館では力を入れている取り組みということで、こちらの希望通り5月6日（金）に出張授業を行うこと、今後の連携を進めていくことを快諾してもらう事ができた。なお、生徒たちの展示作品が相応しいものになれば、貴館のスペースをお借りして、おかしな偉人展を開催させてほしいという私のかなり厚かましい願いも後々、実現する方向で動いている。

(4) 出張授業

5月6日（金）に長澤学芸員に来校していただき、出張授業（図5、6）を行ってもらった。依頼した内容をご自身の経験を交えて、丁寧に分かりやすく説明していただき、生徒たちも、授業者である私たちも多くのことを学べる機会となった。特に私が印象に残っているのは、「展覧会を通して何を訴えたいのかを明確にすることが大切です。」という力強い言葉で、今後の実践に活かしたいと思っている。

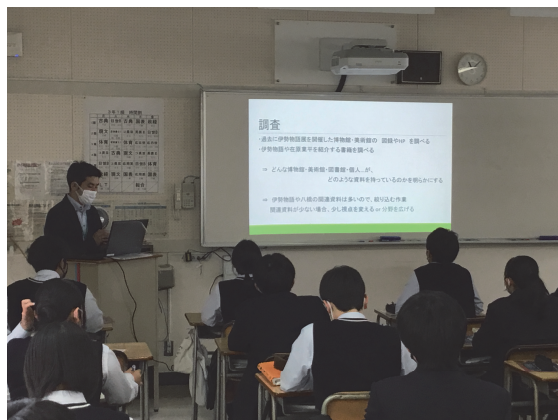


図5 長澤様による出張授業



図6 出張授業を受ける生徒

(5) おかしな偉人展の実現に向けて

出張授業を経て生徒たちは本格的な準備に取り掛かった。この間、広報担当や展示担当を決め、それぞれのポスター制作と同時進行で展覧会全体に関わる仕事も生徒たちが務めてくれた。調査については、情報量が不足しているグループや文献よりもインターネットに頼り根拠が曖昧なグループも見受けられたが、総じて限られた時間の中で良く頑張ったと言える活動であった。また、ポスター制作については、CS 教室（デスクトップパソコン45台を設置）内のパソコンで Word や PowerPoint などのソフトを活用するつもりでいたが、多くのグループはスマートフォンのアプリを活用していた。生徒たちの行動に私だけでなく、若い高野講師も驚いている様子であった。ただポスターのサイズは A1（594 ミリ×841 ミリ）としており、アプリで制作したポスターは規格外だったために、プリントアウトするのに手間がかかった。次の図7・8が活動中の様子である。

図7 BYOD申請をし、スマートフォンの使用も認めた。専用プリントを冊子化し、随時書き込めるようにした。

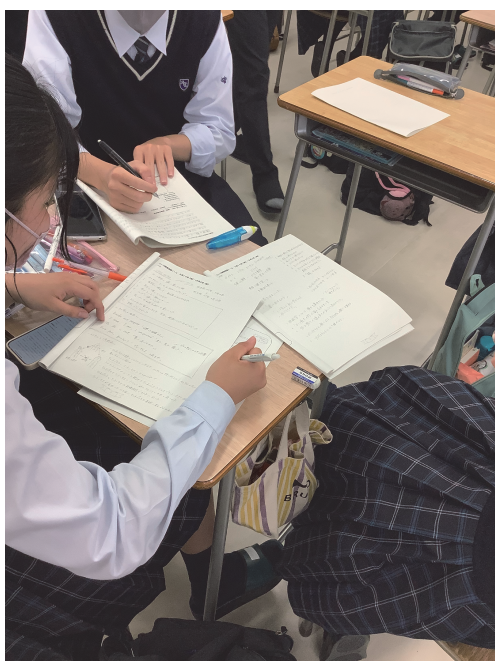


図8 中間報告の様子。普段の活動と異なるグループで進捗状況を報告し合った。生徒の感想によるとお互いのアドバイスが良い刺激になったようである。

こうして、授業時間と碧海野祭前日の準備時間を活用して、おかしな偉人展の開催を迎えた。初めての試みだったが、人通りの多い教室を使用させてもらえたこともあり、多くの生徒や先生方に足を運んでもらうことができた（図9、10）。

図9 広報担当生徒が作成したPR用のポスター。4種のポスターを校舎内に貼り、宣伝をした。



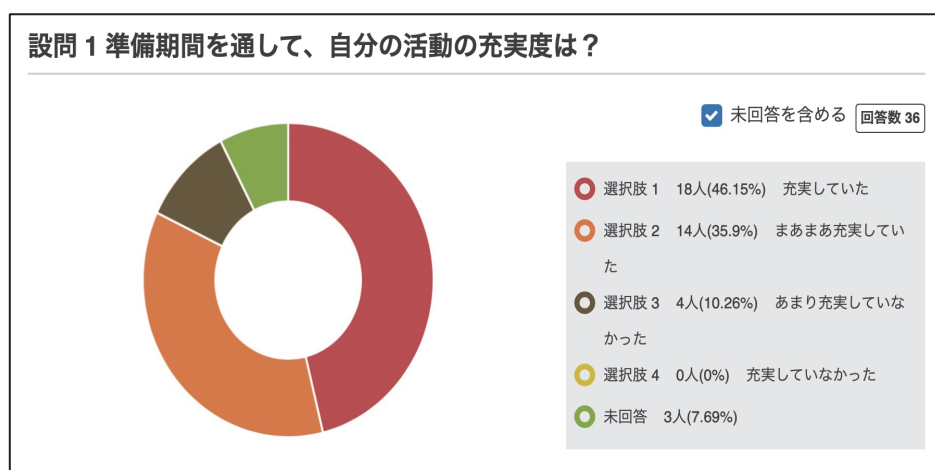
図10 おかしな偉人展に訪れた生徒たち

(6) おかしな偉人展～その後～

当初、授業者側の構想では碧海野祭での展示発表とその後の振り返り授業で一区切りと考えていた。しかし、準備期間中に展示して発表ではもったいないという意見が生徒から出てきたため、ポスターを基にした調査内容の発表会を行うことにした。16グループを2日間の日程に分け、発表3分+質疑応答2分というタイトなスケジュールでの発表会となってしまったが、多くのグループが調査活動の成果を十分に発揮することができた。2日目には刈谷市歴史博物館の長澤学芸員をお招きし、授業の最後には各グループの発表に対してご講評を頂いた。授業の後には、校長室で少しお話をする時間を取ってもらい、そこで再度、私の方から刈谷市歴史博物館でのおかしな偉人展の実施についてお願いをしたところ、いよいよ前向きに検討するというお返事を頂くことができた。現在のところ令和5年3月18日～4月2日の日程で一部のポスターを展示させてもらう予定である。

3. アンケート結果の集約

発表終了後にアンケートを実施した。未回答者は3名で、以下はその抜粋である。



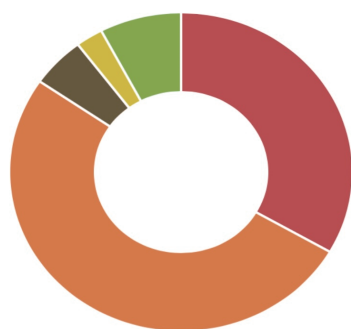
《充実した理由》

- ・ 班の仲間と一緒に協力し、手分けしておかしな偉人について調べ、最終的にはポスターを完成させ、良い形で発表を終えることが出来たから。
- ・ 歴史知識として持っていた背景と面白い点を結びつけながら調べていると、定着しやすいなと学びが得られたから。
- ・ 自分たちが選んだ事柄について積極的に探究し、発表するという点において大学のゼミ活動のような事柄が体験できたから。
- ・ 人物についての情報収集もテキパキと進んで順調に進められたから。自分は日本史選択だったから世界史の人物について調べるのは新鮮で楽しかったから。
- ・ 自分たちのポスター作成もやりながら、宣伝用ポスターを作ったり、部屋の装飾を考えて行ったりとたくさんの動きをしていたとおもうから。

《充実しなかった理由》

- ・ これを通して身についたものがあまりないから。
- ・ 集めた情報をまとめ切れていなかったから。
- ・ やることを早く終えてしまったためその後何をしたらいいか分からなくなったから。調べる時間が長すぎたと思います。

設問 4 展示ポスターの自己評価は？



☒ 未回答を含める 回答数 36

選択肢 1	13人(33.33%)	満足できた
選択肢 2	20人(51.28%)	まあまあ満足できた
選択肢 3	2人(5.13%)	あまり満足できなかった
選択肢 4	1人(2.56%)	満足できなかった
未回答	3人(7.69%)	

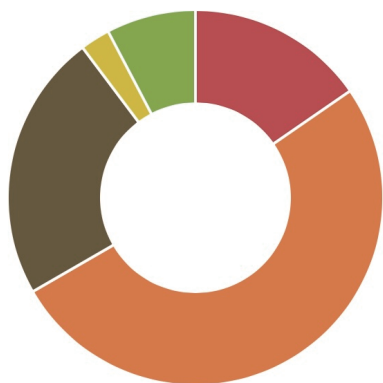
《満足できた理由》

- ・自分たちが伝えたいことをしっかりとポスターにまとめることができ、図や画像などの資料を用いて分かりやすくまとめることができたから。
- ・偉人の生まれた国の特産物をモチーフにしたり、おかしな面で関係のある絵をつけて、わかりやすくてきたから。
- ・他のグループとは少し違うデザインや作製方法で目を引くものにできたのではないかと思ったから。
- ・コメントを見ると、面白かったとか、ポスターの仕様がいいアイデアだったとか、たくさん書かれていたから。
- ・一般的にいちばん多いであろう直感的な「おかしさ」を存分に詰めることが出来たと感じているが、もう少し実際に実験装置の制作等でおかしさの追体験(?)が行えると良かったと思った。
- ・インスタや Twitter のプロフィールみたいに作れたのは満足だったけど、内容をもっと詳しく文で載せたら良かったなと思ったから。

《満足できなかった理由》

- ・直前でデータが全て消えて即席のものになってしまったから。
- ・調べるじかんがながすぎたり、作る作業を始めるのが遅すぎたりしたせいで満足のいくポスターは作れなかった。

設問 7 発表の自己評価は？



☒ 未回答を含める 回答数 36

選択肢 1	6人(15.38%)	満足できた
選択肢 2	20人(51.28%)	まあまあ満足できた
選択肢 3	9人(23.08%)	あまり満足できなかった
選択肢 4	1人(2.56%)	満足できなかった
未回答	3人(7.69%)	

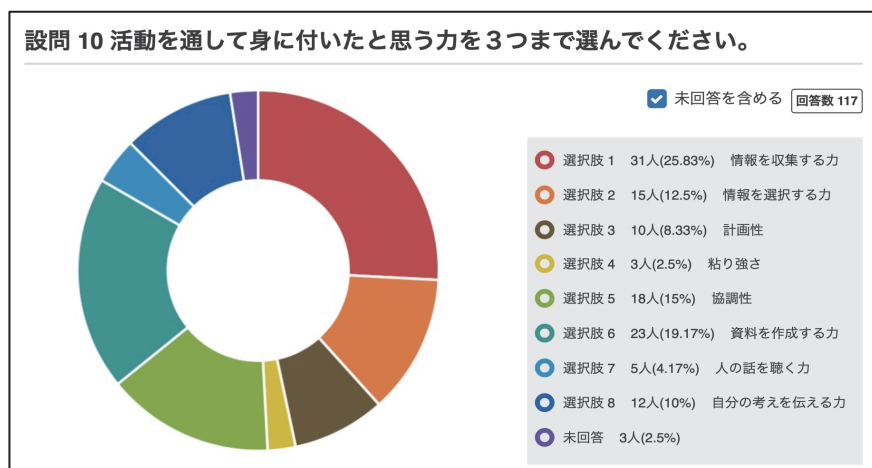
《満足できた理由》

- ・伝えたい要点を絞って、より分かりやすく説明したり、質問に答えられるように前もって準備したりと、発表の準備から発表までとてもよく出来たと思うから。

- ・時間もちょうどよく、特に伝えたいことを中心に綺麗に発表できたと思う。博物館の人からも質問をいただくことができてとても嬉しかった。

《満足できなかった理由》

- ・圧倒的な準備不足。それに尽きる。
- ・原稿を考えるのを忘れて、ただポスターを読み上げるだけになってしまったし、緊張して声が小さくなってしまったから。



《感想》

- ・計画性がなさすぎるのを今回のことでとても思い知ったので、受験で失敗してしまわないように計画性をもっていきたいと思った。第1志望の大学の入試は面接があるのに、人前で話すのがとてもなく苦手で、普段の何倍もぎこちなくなってしまうのをどうにかしてなおしたい。
- ・偉人を選択する段階では比較的是やく進めることが出来たが、「おかしい」の観点は人それぞれ違うと思われるので、面白さから取るか、不可思議さから取るかななどを考えながら進めた。
- ・正直に言えば社会科科目はどれも苦手なものばかりではあったが、「自分から調べる」ということは思っていたよりも楽しく、これが普段の勉強にも生かせるといいのかなと感じた。
- ・協調性の大切さを感じた時は、グループ活動を通して、2枚のポスターを仕上げなければいけなかったため、グループの子達と協力し、役割分担をして効率的に行動した時です。やはり、一人一人が責任をもって行動しない限り、グループ活動は上手いかないのだと感じました。そして、情報を判断する力の大切さを感じた時は、ネット上には絶対に正確な情報が載っているとは限らないので、その情報の元を調べたときです。
- ・1人の歴史上人物について、普段であれば学んだり知ることができる機会がないような、おかしな点を調べ学ぶ体験ができ、とてもよい機会になったと思う。また資料作成力やプレゼンテーション力など、今後活かすことができるような力も身についたので、今回の体験を無駄にしないようにしたい。
- ・今までの人生で1人の人物にフォーカスを当て調べ尽くすということがなかったので、実際にやってみて1番に楽しかったと感じました。私はあまり歴史が得意ではないので自分自身がしっかりと理解しきれるか不安なところもあったけれど、1から調べていくことでその人物のことだけでなく時代背景の理解も深まり、最終的にはポスターに上手くまとめあげることが出来て大満足しています。
- ・歴史上の人物も、成し遂げた事だけでなく、変わった1面などの負の面にも注目してみると、興味が湧き、その人物について知る意欲も沸いたため、日本史の勉強でも、成し遂げたことと、どんな人物なのかを関連させながら覚えるなど工夫をしていきたいと思いました。

これらの生徒の意見にもあるように、歴史上の人物について探究することにより、歴史に興味・関心を高める成果があったと考えられる。また、情報を収集する力や情報を選択する力が身についたと考える生徒の割合が高く、グループメンバーと協力して活動ができたようである。加えて、展示や広報はリーダーを中心に主体的に取り組んでいるようであった。しかし、日本史選択・世界史選択合同のグループを作ってしまったことや調べ学習の時間設定などの課題も明らかになった。そのため、日本史選択の生徒が世界史上の人物を調べているケース(その逆も含む)もあり、とても苦戦しているようであった。さらには、ポスター印刷や装飾品作りの際は、教員2人では足りず生徒を待たせ、活動が中断してしまうことも多々あった。今後行う際は、最低でも教員3人は必要であると考えます。

4. おわりに

博物館と連携した授業の可能性を探りたいという思いから本実践は始まり、本格的な連携を深めるための大きな一歩は踏み出せたと感じている。今後は「展覧会を通して何を訴えたいのかを明確にすることが大切です。」という長澤様のメッセージを実現するため、生徒たちが企画の検討を始める前に出張授業を行ったり、あるいは高校生が刈谷市歴史博物館を訪れたりすることが必要と考えている。実は今回も打ち合わせの段階で「高校生に来館してもらい、企画展の見学と講義受講をさせてはどうでしょう。」とご提案を頂いていたのだが、時間の関係で実現させられなかった。博物館と高校で博学連携を活性化させるためにも、今後は時間の調整をして何とか実現させたいと思っている。同じ刈谷市内にある同館との連携は、地域連携にも繋がる。本校は愛知教育大学の附属高校としての強みはあるが、他の刈谷市内の高校と異なり校名に「刈谷」の文字が含まれない分、刈谷の学校としてのイメージは薄いのではないかと少なくとも私は感じている。それでも刈谷市を含め近隣の市町の多くの中学生在が本校に関心を持ってくれているが、地域連携を進めることでさらに地域社会への貢献をしていきたい。

また、高野講師と協力したことで、本実践は日本史/世界史の科目横断型授業となった。グループ編成を科目別にした方が円滑に調査できるだろうが、科目横断に相応しい企画展のテーマを設定すれば、新指導要領のもと歴史総合を学んでいる現1年生の今後の活動に活かせるのではと思っている。高野講師には授業はもちろん、生徒へのサポート、アンケート実施と分析、本稿の執筆と多大な貢献をしてもらった。教職大学院生の力をどう発揮させ、それをどう生徒に還元させるか、私の中では課題に感じていたことだが、今回のように役割分担をして協力していけば、大学院生にも生徒にも、そして教員にも良い学びの機会を作れるという手ごたえを感じている。

末筆ながら、本実践に協力を頂いた刈谷市歴史博物館の河村指導主事、長澤学芸員、本校3年1組の生徒諸君と先生方に改めて感謝を申し上げます。

5. 参考文献

- 地域・教育魅力化プラットフォーム (2019) 『地域協働による高校魅力化ガイド
- 社会に開かれた学校をつくる - 』、岩波書店
- 銭谷眞美ほか(2022) 「特集 博物館からはじまる教育旅行での探究学習」
『月刊 教育旅行 788 4-17.』